

四日市版コミュニティスクール報告書(令和3年度総括)

四日市市立桜台小学校

校長 北住 昌文

1 コミュニティスクール(学校運営協議会)のねらい

四日市版コミュニティスクールの指定を受け、「桜台小学校運営協議会」が発足して4年次を迎えました。本校の『学校づくりビジョン』に掲げた学校教育目標「夢と希望に向かって心豊かに学び合う子どもの育成」を実現するために、今年度は「あたりまえのことをあたりまえにできる子ども」「授業を大切にしたい子ども育成」「地域、保護者から信頼される学校づくり」の3つを、推進のための重点ポイントとしてあげました。保護者や地域の方々から意見をいただく中で具体的方策を考え、学校経営の改善を図ってきました。

2 コミュニティスクール(学校運営協議会)の実践について

本年度は、年間6回の運営協議会を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症対策で、第3回と第6回を中止とし、年間4回の実施となりました。第2回は桜中学校と合同で開催をし、同じ桜中学校区にある小・中学校の『学校づくりビジョン』について紹介をしました。1年間を通して大切にしたい取組実践を交流する中で、中学校区としての地域の力を学校運営に生かそうとしました。また、第4回では本校の秋季運動会を参観していただきました。運営委員の皆様から、子どもたちや教職員の活動の様子を見ていただき、感じたことについて、それぞれご意見をいただきました。第1回、第5回については、本校の1年間の教育方針や計画、本校が1年間取り組んできた教育実践の総括について、さまざまな視点からご意見をいただきました。

(1) 教育活動の実践事例

①学習活動への支援

【 図書ボランティア・学習支援ボランティアの活用：全学年 】

現在本校では、図書ボランティアと学習支援ボランティアの団体が教育活動にかかわり、その活動が定着してきています。6年目となる今年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、図書ボランティアの皆様による読み聞かせが中止となる期間もありましたが、年間を通して計画的に朝読書の時間に各学級へと読み聞かせに入っていました。それ以外にも低学年図書室を中心とした掲示物の作成やはりかえなど、読書環境の整備もしていただきました。

学習支援ボランティアの皆様の授業における学習支援については、昨年度同様、今年度についても見送ることとなりました。夏季休業中の補充学習については、算数ボランティアの皆様に来ていただき、子どもたちの学力の基礎基本の定着にご協力いただきました。
<夏の補充学習の様子>



<読み聞かせ、読書環境整備の様子>



②地域や人から学ぶ

【「ボランティアさんありがとうの会」の取組：全校】

今年度も、校庭の除草や木々の剪定などで「緑の会」や「園芸ボランティア」の方々に大変お世話になりました。コロナ禍で「ゆびとま」などの大規模な環境整備ができず、運動場一面が草で覆われてしまいました。子どもたちや教職員だけでは除草が追い付かない状況になりましたが、ボランティアの方々に、こつこつと校内美化の環境整備を進めていただいたおかげで、運動会開催日までには、草のないきれいな状態の運動場にさせていただきました。

子どもたちの中から、「感謝の気持ちを伝えたい」という声が上がリ、代表委員会（児童会）が中心となって、全校児童の前で運動場をいっばいに使った「ソーラン踊り」を披露しました。その後、セレモニーの中で感謝の言葉を伝えるとともに、感謝の気持ちを込めた小さな置物をボランティアの皆様へ渡すことができました。



③保護者・地域への開かれた学校づくり

【桜台小学校見守り会（交通安全見守）による登下校見守り】

子どもたちの登下校の際には、PTA委員の方々や桜台小学校見守り会の皆様を中心に、子どもたちの登下校の安全を見守っていただきました。校区の民生委員の皆様を中心に、子どもたちの登下校を見守る「桜台小学校見守り会」が発足して3年目を迎え、活動が定着しています。保護者からは「おかげさまで、見守り会の皆様の存在に心から感謝をしている」との声がたくさん寄せられています。これからも、地域の皆様とともに子どもたちを見守るとともに、防犯意識を高めていきたいと思ひます。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

今年度も7名の委員の皆様へ、授業や行事における子どもたちや教職員の姿を実際に見ていただき、さまざまな視点からご意見をいただきました。

<第1回運営協議会>

授業参観の後、児童の様子や学校づくりビジョンなどについて、パワーポイントを使

って説明をしました。以下のようなご意見（概要）をいただきました。

- ・コロナ禍において、行事も減る中、何か子どもたちの心に残るものを行ってほしい。
- ・授業中のコロナ対策は取られていると思うが、20分休みなど、子どもたちだけにいるときのコロナ感染対応に気を配ってほしい。
- ・トイレのスリッパの乱れなどに加え、子どもたちの授業中の姿勢の崩れ、話を聞く姿勢に課題があり気になった。
- ・コロナ禍において、保護者も子どもも大きな不安を持っている。
→ 学校HPや学校だよりにおいて、適宜学校の様子を発信する。
- ・授業公開は、1～3限の公開で保育園西側の駐車場がいっぱいの状態であった。事前に保育園とも連絡を取り、対応を考えてもらえるとよかった。
→ 事前に保育園とも相談し、1限目を避けるなど、今後は対応を考えておく。
- ・引き渡し訓練が平日に行われようであったか。土曜日に訓練を入れると、保護者も仕事を休みにするなど困らなくてよかったのではないか。自家用車でのお迎えで渋滞が起きたようだが、そのあたりはどうだったか。
→ 本当に災害が起きたことを想定して、本年度は平日に訓練を設定した。訓練開始から1時間程度ですべての児童の引き渡しを行うことができ、実際に災害が起こっても、保護者の理解を十分に得られることが実感できた。
交通渋滞については、時間にして10分程度であり、自家用車の流れも一方通行にして行っていたため、想定内だったと考えている。

<第2回運営協議会（桜中学校との合同）>

2グループに分かれて、桜台小学校の授業を参観し、その後各校から学校の様子を話し、意見交換を行いました。

- ・児童（デジタル世代）に対して、従来の子ども観で接していくと、ギャップが生まれているように感じることはあるか。
→ 子ども自体の本質は変わっていない面もある。子どもが遊べる場所や保護者の働き方に大きな変化を感じる。また、少年団等に所属する子どもは減ってきている。
- ・子どもたちの交通マナーへの指導として、歩行者や自転車の並列が気になる。地域と学校で、気づいて、行動ができる子どもを育てていく必要があると感じる。
- ・ヤングケアラーに対して、地域はどう関わっていけばよいのか。指標などはあるのか。
→ 学校での子どもの荒れの背景に、家庭での課題が含まれていることがあり、学校と地域とで細かな情報の共有をしていきたいと思う。

<第3回運営協議会>⇒新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

<第4回運営協議会（運動会参観）>

きょうだい学年に分けて開催した運動会を参観いただき、感想をいただきました。

- ・子どもたちが、それぞれの役割を一生懸命に努めている姿が大変良かったと思います。
- ・子どもたちの明るく素直な躍動する姿は、何度見ても素晴らしい。また、補助員として動く子どもたちが役割を持ってきばきと動く様子も立派でした。
- ・コロナの影響で大声を出すことができず静かな応援でしたが一生懸命拍手で声援をおくっていました。競技が終わってからの写真タイム、いいアイデアですね。
- ・コロナの影響で、いろいろな教育活動が制限される中、子どもたちにとって楽しい運動会も少し物足りない感じだと思います。この機会（コロナ）をチャンスととらえ、学校行事の見直しも大事なことから考えます（児童、教員両方にとって）。



<第5回運営協議会>

学校がこれまでやってきた活動の紹介や児童の様子、ボランティアさんの学校への関わ

りの現況などについて説明をしました。その後、各教室の外に展示してある人権標語や人権すごろく、書写や図工の作品を順番に見て回りました。授業の様子については、教室の中に入らず、窓や扉のあいているところから、のぞいてもらいました。

校内巡回の後、「教育活動に関するアンケート」の結果と考察（保護者編、児童編）について、学校だよりをもとに説明を行いました。令和4年度の学校づくりビジョン（案）についても、今年度との変更点について示しました。

懇談会においては、以下のようなご意見（概要）をいただきました。

- ・タブレットを使った授業風景があり、昔と比べると本当に授業も様変わりをしたように感じた。子どもたちは落ち着いて、まじめに授業を受けることができていた。
- ・コロナ禍でさまざまな活動が制限されており、子どもたち同士のかかわりがしっかりとできているのか心配である。
- ・技術革新が進み社会が複雑になっていく中、子どもたちを、どう育んでいくのがこれからの課題である。
- ・登校チームがしっかりとできている。上級生が下級生の面倒をよく見ている。親ではなく、子どもたちの祖父母を招いての授業参観も計画をすると、家庭内でのコミュニケーションが広がり、子どもたちにもいい影響が出るのではないか。
- ・ICTを随所に活用することで、授業において視覚的な影響がある。そのことが子どもたちの「授業がわかる」という肯定的回答率の高さにもつながっていると思う。
- ・運動会に関して、保護者から意見を聞いて整理することも必要だが、学校としては何を大切に、どう運動会をやっていくのかを理解してもらうことも大切である。
- ・今の子どもたちは「マッチの使い方がわからない」といった話があったが、除草作業を見ていると、どれが草なのか判別できない子どもも出てきている。こういった場面を見ても、体験活動の大切さを感じる。



<第6回運営協議会>⇒新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

3 今後に向けて

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、運営協議会の開催数を減らしての実施となりました。しかし、数少ない機会を通して、子どもの姿や教職員の姿を見ただけでも、コロナ禍において、タブレットを活用した授業を参観していただくことで、数年前とは違う授業の変化の様子を見ていただけたことはよかったですと思います。ICT環境とタブレットの授業活用は、コロナ禍において一気に進みました。委員の皆様からも、驚くほどの授業の様子の変化に高い関心を持っていただく事ができました。

また、「桜台小学校見守り会」の活動が定着し、「園芸ボランティア」や「緑の会」、「図書ボランティア」の皆様による協力体制が継続し、地域と学校が協力し合う関係がさらに深まりつつあります。今後も、この協力体制を大切に、地域とともに継続的かつ無理のない、創造的な教育活動を進めていきたいと考えています。



桜中学校区の運営協議会の特徴は、運営協議会が本校による単独開催だけでなく、桜中学校との合同開催や、桜小学校も含めた3校での開催を行っていることです。合同開催の際には、開催校の授業参観を行い、その様子を通して交流を深めることに大きな意義を見出しています。今年度はコロナ禍の影響で十分な取組ができませんでしたが、これからも、3校の連携を密にとり、運営委員の皆様はもちろん、地域の皆様のご協力・ご支援をいただきながら、地域の教育力を学校教育に生かし、学校運営を進めていきたいと考えています。

この1年間、学校を知っていただく事が大切であることを再確認しました。今後も引き続き、開かれた学校づくりを目指して学校HPや学校だより「ひょうたんいけ」などで、子どもたちの様子や学校が取り組んでいる事を発信していきたいと考えています。